



保育所・幼稚園等での見守りチェックポイント



登園

(子どもの様子)
 機嫌はどうか、表情はどうか
 ケガやあざ、火傷の有無
 服装はどうか
 登園は誰と来たか
 親と別れるときの態度はどうか
 持ち物はそろっているか
 食事をとってきたか

例えば・・・
 ・体にあざがある。子どもに聞くと「ぶつけた」と言う。
 ・季節に合わない服を着ている。
 ・親がいる間、親と目を合わせない。極端にいい子になる。
 ・親の表情を窺う様子がある。おどおどしている。

(親の様子)
 表情はどうか、子どもへの接し方はどうか
 きょうだい間で対応の違いはないか
 会話の内容はどんなか
 服装・身なりはどうか
 遅刻しがちである
 休むとき連絡はあるか、理由はどうか

例えば・・・
 ・傷やあざについて言わない、またはつじつまが合わない理由を言う。
 ・会話を避けるように帰る。

午前の活動

(子どもの様子)
 食事をとってきたか
 極端な感情表現が見られる
 遊び方が攻撃的な様子がある
 衝動的な行動がある

例えば・・・
 ・おなかをすかしている様子で元気がない。ボーっとしている。
 ・寝不足な様子でいつもあくびをしている。
 ・年齢にそわない言動がある。(性的な発言や遊び、乱暴な言葉づかいなど)
 ・すぐにカッとして、友達とトラブルを起こす。
 ・いらいらした様子で、物を投げ散らかしたり、乱暴に扱う。
 ・落ち着きがなく、集団に入れない。
 ・感情の表出ができにくくなり、無表情になることがある。
 ・職員に引付いて離れない。
 ・大人が上から手を伸ばすと怯えた動作がある。

おひるごはん

(子どもの様子)
 食事の食べ方はどうか
 食欲がなく元気がない
 弁当やお茶の用意が不十分
 虫歯の治療ができていない

例えば・・・
 ・ガツガツ食べる。
 ・何度もおかわりをする。
 ・食べたことのない食材が多い。

身体測定・健康診断

(子どもの様子)
 身体に不自然なケガや火傷の有無
 身長が伸びていない
 体重が減っている
 ※欠席気味の子どもは随時、測定する。

着替え/おひるね

(子どもの様子)
 見えないところに傷やあざ、やけどの有無
 下着や服が汚れている
 オムツはきれいか
 体がいつもよごれている
 季節に合った服装か
 入眠の時の様子
 布団、シーツは衛生的か

例えば・・・
 ・背中にあざがある。
 ・おむつかぶれがひどく、お風呂に入っている様子がない。
 ・なかなか寝付けられない。
 ・安心して眠れない。
 ・しくしく泣いている。
 ・暗くなるのを怖がる。
 ・いつもと違う様子がある。
 ・いつもないのに、おねしょがある。

午後の活動

(親の様子)
 連絡帳の内容はどうか
 提出物や集金の提出がない

例えば・・・
 ・連絡帳に何も書かれていない。
 ・「言うことを聞かなくてイライラする」「叩いた」など子どもに対して否定的なことが書いてある。



降園

(子どもの様子)
 親が迎えに来たときの態度はどうか

例えば・・・
 ・迎える保護者によって、子どもの態度が違う。
 ・親のそばに行きたがらない。
 ・なかなか降りたがらない。
 ・職員にすがりつく。

(親の様子)
 子どもへの接し方はどうか
 子どもの方を見ているか
 会話の内容はどうか
 子どもの話を聞いているか
 きょうだい間で対応の違いはないか
 登園時と比べて様子に変化はないか
 保育者や他の保護者と会話があるか
 降園時間を守らない

例えば・・・
 ・「いいかげんにしなさい」など厳しい、一方的な言葉かけが多い。

〈子どもへの対応〉

- 安全確認のために
 - ・子どもが安心できるようにそばに付き添い話をきく。
 - ・子どもが話せる雰囲気をつくり、傷やあざ等の受傷理由を聞く。
 - ・着替え時や午睡中に傷やあざがないか身体チェックを行う。
※虐待が疑われる場合には写真などで記録をとる。(※1)
- 子どもの状態把握のために
 - ・普段の様子と比べて、気になる行動や感情表現がないか観察し、あればその理由を考え、記録する。
※普段と違う様子が長期に続く場合、心理的虐待やネグレクトの状態に置かれていないかを複数の視点で検討する。
 - ・日常会話のなか、家庭での生活状況をさりげなく聞く。

〈親への対応〉

- 安全確認のために
 - ・連絡なく登園しない場合には、電話連絡や家庭訪問等をし、事情を確認する。
 - ・傷やあざ等の理由について、その場で確認できなかった場合は、お迎えのときや連絡帳で必ず確認する。
 - ・気になる発言もまずは聞く。内容が深刻な場合は、所長・園長に相談し、対応を考える。具体的な対応は複数の視点で検討する。
- 生活状況の把握のために
 - ・食事、睡眠など生活習慣に関することをさりげなく聞く。
 - ・園での子どもの様子を具体的に伝えながら、家庭環境の変化の有無などを聞く。
- 育児支援のために
 - ・忙しさ、大変さをねぎらう言葉をかけながら、親のできそうなことを具体的に伝える。
 - ・言葉の裏にある親の思いを受容しつつ、その日の子どもの様子を細かく伝え、子どもの成長を喜ぶ気持ちを親と共有していく。

※1 記録のしかた (参考)

- 受傷時期、確認日時、子どもと親の聴取内容を記録し、受傷箇所は図に書いておく。
- 可能な限り写真を撮り、撮影時は、
 - ①傷やあざの大きさが分かる対象物を入れて撮る。
 - ②受傷部位(上下肢、半身)と傷やあざを遠近から撮る。
 - ③日時、部位等の記録をする。
- 直接撮影できない時は、活動中や午睡中にさりげなく撮る。

こんなときは・・・

- 頭部、顔面へのあざやケガがある。
- 原因がはっきりしない傷やあざ、火傷が続いている。など、緊急性のある場合は速やかに通告・相談してください。

『気になることがあれば、所長・園長と相談し、(市町村児童家庭相談窓口等)に連絡をお願いします。』